



目次

幹事長の言葉	岡部健志(21期)	2
会長の言葉	浅野昭(12期)	3
前部長の言葉	比嘉友紀(27期)	4
新部長の言葉	近藤友洋(28期)	5
前コーチの言葉	北村伸介(25期)	6
矢板インカレの感想	村上巧(27期)	7
京葉 OLC30 周年記念大会の運営を終えて	奥田健史(16期)	8
近況報告	蔵田真彦(22期)	12
近況報告	和田雄一郎(16期)	14
矢板インカレ応援広告	25期一同	16
ML・ホームページ・掲示板について		17
新事務局長挨拶	友安充宜(26期)	17
編集後記		18

写真:インカレリレー2006@矢板 ゼッケン 101, 1 走スタート前の村上巧選手(27期)
 写真提供:仁多見剛氏(20期)

幹事長の言葉

岡部健志 21 期

もうずいぶん暖かくなってきました。今年の冬は暖冬であり寒さは感じませんでしたが、かと思えば 3 月に雪がぱらついたりと変な季節でした。そのせいかこの冬はスキーには一回しか行けず、花見も逃してしまいました。ニュースでは地球温暖化、気候変動などの言葉が飛び交っていますが確かに季節が少しおかしくなっているのかもしれない。

この4月で私も社会人4年目に突入しました。早いもので、大学に入学し新歓で OLT の部室に初めて足を踏み入れてから9年経ったことになります。今は新歓の最中だと思いますが、今年 OLT に入る新入生は 30 期(!)となります。月日の経つのは本当に早いものです。

社会人となって丸 3 年が経過し、ようやく仕事にも慣れてきました。まだまだ勉強不足と感じる一方、他部署とのやり取りでも年下を相手にすることもあり、自覚を持って仕事に取り組んでいかなくてはと感じています。

さて、東工大を卒業して 4 年目にあたり自分の中でこの一年のテーマを決めました。それは「広島を満喫するぞ!」です。私は社会人になったと同時に広島の実業部に配属されたため、広島に来てからも同様に 4 年目になります。今までは広島的生活や仕事に慣れるのに精一杯で広島を楽しむという意識がありませんでしたが、考えてみればいつまで広島にいるかも分からない身ですから、広島にいるうちに行ける所には行っておこうと考えた次第です。

具体的には広島の名所、イベントを回っています。まずは 2 月に呉の南にある倉橋島で開催された「かき祭り」に参加しました。広島名物のかき料理が多く安値で売っており、その場でかきフライやかきの味噌汁を楽しむことができます。他に無料で焼きがきも配られており、これは列に並べば何度でも食べることができます。また、4 月には広島ビッグアーチでサンフレッチェ広島の試合を見に行きました。グラウンドに入る前の通路も広くて開放感があり、いいスタジアムでした。今後も尾道や呉の大和博物館など様々な場所に行ってみようと計画しています。

ともすると変化の無い生活でだれてしまいがちですが、こうしたテーマや目標を持つことで日々の生活にも張りが出てくる・・とは言いすぎかもしれませんが、良い気分転換になると思います。今年一年は広島を楽しみつつ、来年の目標を考えていこうと思っています。

それでは今後ともつばめ会をよろしく願いいたします。

会長の言葉

12期 浅野 昭

最近、“より良い生き方ができるコツ”をまとめた本が流行しているようで、本屋さんに出かけると、その手の本をたくさん見かけます。

そんな本に必ず載っているフレーズが、“目標を掲げる（適切な目標設定を行なう）”なんて文句です。

もちろん、このこと自体はとても大切なことで、これによって生み出されるモチベーションはとても大きなものです。（たとえば、毎年のインカレ団体戦に向けてのパワーは、今も昔も変わることはありませんよね）

しかし、何でもかんでも目標設定をするようになってしまうと、しだいに新鮮味が薄れてしまうようで、効果を発揮することができなくなってしまいます。

（これは社会人経験を重ねた人ほど、実感していただけたと思います）

さて、このつばめ会ですが、当然、きちんとした設立目的があって、このOB会があるわけで、つばめ会規約に則して、この会報も発行されています。

しかし、最初の発起人のひとりであるわたしが、こんなこと白状するは問題あるのかもしれませんが、14年前には、最初に大目標があって、つばめ会を立ち上げ、会報を作ったわけではありません。

ただ単に「そのときやりたかったことをやった」だけです。（もちろん継続させていくための工夫も少しだけしましたが。）

それがいつの間にやら、つばめ会は会則制定から数えてもうすでに10年になろうとし、このSlopeはこの号で21号になります。

世の中には瞬発的に強い力が効果を発揮する仕事と、たとえどんなにか弱くても継続的な力が効果を発揮する仕事の2種類があります。

たぶん、普通の企業にお勤めの方だと、圧倒的に前者の仕事の比率が高いわけですが、このつばめ会の活動は営利目的が無いおかげもあり、後者の仕事の分類に入ると思います。

ですので、数年ぶりに総会（懇親会）に出席する、OLT杯に参加するといったことでもつばめ会にとっては十分すぎるほど、大きな貢献になります。

そんなわけで、これからもつばめ会の活動にご支援、ご参加のほどよろしく願いいたします。

前部長の言葉

27期 比嘉 友紀

つばめ会の皆様、いろいろと変化の多いこの季節いかがお過ごしでしょうか。部長業を終え、この4月に研究室所属と私自身、かなりの環境の変化に身をおいています。

さて、3月に行われたインカレミドル・リレーにおいて我々東工大OLTの成績はと申しますと、ミドルでA-finalへ進出したのが1人と昨年より少なくなっていました。結果も7位と入賞にあと一步届きませんでした。リレー競技では8位で、こちらも入賞は出来ませんでした。去年は「リレーで3位以内」、「部員全員で走行距離 12,000km」を目標としてきました。掲げた目標と結果にかなりの開きが出てしまいました。これは、私を含め部員に目標がどれほど意識されていたのか、そもそも目標の設定が安易すぎたなど、反省点を挙げればきりありません。私を感じたことを来年の部長である近藤君に伝え、また部員にも伝えていくことがこれからの私の仕事であると思っております。みんなで考え実行に移すことが出来ればいいなと思います。

去年私が部長をやっていると感じたことをひとつ。やはり、部が個人化してきているのかなと感じることがありました。オリエンテーリング自体が個人競技であります。そのため、トレーニングも1人で出来ます。日曜の大会には出るが、水曜練には出ないという人が増えてきているような気がします。仕舞いには大会ですらあまり出ない、部会にも出ない。そういう状況にもなってきます。そこを注意しなかった私の責任でもありますが、そうなった原因はいろいろあると思います。その一つとして部の雰囲気というものやはり大きいと思います。直前合宿で仁多見さんが仰っていましたが、「隣の人が何をしているかわかっていますか?」。部員のしていることを気にかけて、声をかけてあげる。また、分からないことがあったら聞く。この当たり前の事がやはり大事だと思います。私自身それが出来ていたかという、あまり出来ていなかったように思います。お互いの意思疎通が大事であると感じました。4年生としてどこまで関れるか分かりませんが、積極的に部に顔を出していければなと思っております。

長文かつ稚拙な文章を読んでいただきありがとうございます御座いました。昨年度は我々東工大OLTに対してのご声援とご支援、誠にありがとうございます御座いました。特に、直前合宿では沢山のOBの方々に参加いただいて、内容の濃い合宿になったと思います。本当にありがとうございます御座いました。今後とも東工大OLTをよろしくお願い申し上げます。

新部長の言葉

28期 近藤 友洋

つばめ会の皆様、はじめまして。2007年度東京工業大学オリエンテーリング部部長に就任しました近藤友洋と申します。部長になっての初仕事のひとつとして、つばめ会の皆様へのご挨拶をさせていただきます。

昨年度のインカレでの結果を振り返りますと、ミドルディスタンス部門では A-final 進出者は一人と一昨年度からは減ってしまい最高順位は7位でした。ミドルセレを通った人数自体は一昨年度とあまり変わらなかつただけに残念な結果といえるでしょう。またリレーでは8位と順位こそ一昨年の10位から上がりましたが、入賞を目前としながら逃してしまうというこちらも満足しきれない結果になってしまいました。

今回のインカレにおいて後一步というところで入賞なり、A-final なりに手が届かなかったのはひとえに上位大学に比べて走力、ひいては走行距離の絶対量が足りなかつたからとの反省をもとにして、今年度は全体での大目標として「部全体の底上げ」を掲げ、具体的な目標としては「インカレリレーでの入賞」・「学連枠獲得(インカレミドルで20位以内)者を10人出す」を決めました。また火ランの必修化や、水曜練後にも有志で走りに行くようにするなど走る機会自体を増やすようにしていくつもりです。

今年も新入生を迎える時期となっています。昨年度新歓時より部員の心がけがいいおかげか、今年は今のところ雨にもそれほど降られず新歓活動を行えています。逆に入りすぎて困るくらいの人数を、入部させるくらいのもりで新歓活動にも励みたいと思います。

また、合宿などで先輩方の経験談を披露していただければ、現役部員の励みにもなるかと思えます。合宿などへのご参加お待ちしております。

運営学年としてまだまだ不安や頼りなく思われる部分も多いでしょうが、オリエンテーリング部のため精一杯頑張っていきたいと思えます。今年一年、どうぞよろしくお願ひします。

前コーチの言葉

25 期 北村 伸介

つばめ会のみなさん、こんにちは。前年度ヘッドコーチを務めました北村です。早速ですが、3月までの1年間を振り返ってみたいと思います。
コーチとして関わった主な行事は以下の通りとなります。

- ・ロングセレ@りんごの里(群馬県渋川市)
- ・秋合宿@りんごの里、赤城(群馬県渋川市、赤城村)
- ・インカレロング@駒ヶ根高原 2006(長野県駒ヶ根市)
- ・ミドルセレ@滝山城址 2006(東京都八王子市)
- ・冬合宿@勢子辻、村山口登山道(静岡県富士市、富士宮市)
- ・直前合宿@前高原、不動の滝(南)(栃木県矢板市、塩谷町、今市市、日光市)
- ・インカレミドル@矢板温泉、矢板幸岡(栃木県矢板市)

このうち前号(Slope20号)発行以降の行事に焦点を当てていきますと、インカレミドルでは個人戦選手権クラスに16人出場しA-finalで7位(小山)。またリレーでは8位(村上巧-小山-比嘉)という結果に終わり、今年も入賞まであと一歩になってしまいました。

また合宿ではコーチ以外にも同期(25期)、またOBの皆様に協力していただくことができ、無事に運営することができました。特に、直前合宿においては多数のOBが集まり、近年稀に見る充実した内容になったのではと思います。

1年間のコーチ業を終えて感じたことは、「部全体の底上げが必要」ということです。インカレ、特にリレーで入賞を長く逃している原因を考えますと、やはりリレーメンバーに選出される実力を持った人が3人、もしくは4人であることが挙げられます。ある意味メンバーの固定化が起り、更なるレベルアップに向けた競争が起りにくい状況にあると思われれます。また、体力面から見ても、他大学と比較した時にどうしても劣ってしまい、技術面でカバーして上位に食い込んでいくという方法をとらざるを得なくなってしまいます。

この現状を打破するには、やはり部全体での向上意識を強く持つことで、部内の競争活性化を引き起こし、結果としてリレーメンバー選出レベルの人材を増やしていくことが必要なのではないかと考えます。この1年間、初級～中級レベルに対して合宿時に積極的な指導を行ってきましたが、それ以上の層に対しては不足していた感があります。4月からの運営陣、および新しく選任されたコーチ陣にはこれらの点を頭の片隅においてこれからの1年間で頑張ってくれればと思います。

最後になりますが、OBの皆様には様々な形で非常にお世話になりました。本当にありがとうございました。これからもOLTへのご支援およびご声援を宜しく願います。

矢板インカレの感想

27期 村上 巧

2006年度矢板インカレが終了して約1ヶ月が過ぎ、ようやく研究室生活にも慣れてきました。

思えばこの1年は、運営学年としての活動、インカレロングや各種大会への出場、そしてインカレミドル&リレーにおける選手権リレーへの出場と、結果良し悪しに関係なく、様々な経験をさせていただいた1年であったと思います。

今年度のインカレは、自分にとって今までで一番、緊張感または責任感というものを感じてオリエンテーリングをしたと思います。冬に入ってから、自分がリレーメンバーに選ばれることがほぼ確定した状態になり、そしてまもなくしてリレーの1走を走ることになり、関東リレーや直前合宿においては常に1走を走れることを意識においた練習をコーチの方々に組んでいただきました。そういった練習をしていくうちに自分の走るインカレリレーの事の重大さや、1走を走ることの厳しさについて意識が高まっていきました。初めて走るインカレの選手権リレー、そしてその1走を走るといふことで、自分としては精神的に重荷のようなものを感じていましたが、共にリレーを走る仲間にも励まされたり、コーチの方々に様々なアドバイスをいただいたりしたことが心の大きな支えになりました。

インカレ当日は、個人戦では残念ながら決勝に進出できなかったため若干落ち込みましたが、すぐに次の日のリレーにむけて心をきりかえました。リレー当日は、雨という自分にとって苦手なシチュエーションの中なんとか全力を尽くしましたが、タイムはトップから7分ぐらいで2走の小山につなぎました。小山が何人か他大を追い越して戻ってきた後、3走の比嘉にたすきがわたり、比嘉が自分のオリエンを確実にこなし、東工大の結果は8位となりました。

残念ながら入賞とまではいきませんが、この8位という結果は、実力を発揮しきれなくてこの順位になったというのではなく、リレーメンバーの3人が一生懸命トレーニングし、チームとしての信頼関係を作り上げてきた結果勝ち取れたものであると思います。また、今回選手権リレーを走った3人は大学3年であるため、今回のインカレの反省等を十分に生かして来年度さらに向上していくという可能性をもっていますので、来年度のインカレへの十分な期待も持てるかと思っています。

また、この1年を通して、オリエンテーリングは、誰もが実力をつけて上位のほうへ台頭していく可能性のあるスポーツであると感じました。1年前まではそんなに有名でなかった選手が1年間のトレーニングによりトップクラスまで上っていった例が数多くあります。その可能性は勿論、東工大 OLT のどの選手にも当てはまることだと思いますので、後輩には是非これからさきも頑張ってもらいたいと思います。

最後に、この1年間練習会や合宿に様々な面で協力していただき、数多くのアドバイスをくださったコーチの方々やその他東工大 OLT の OB の方々に多大なる感謝を申し上げます。

京葉 OL クラブ 創立 30 周年記念大会の運営を終えて

16 期 奥田 健史(大会実行委員長)

●はじめに

3月31日から4月1日にかけて、私は大会実行委員長として表題の大会を運営しました。これまでも東工大 OLT 杯・インカレ・京葉 OL クラブ大会等、様々な大会を運営してきましたが、その中でも最も印象に残る運営になりました。そこで、この場をお借りして、【良かった点】と【反省点】をまとめることによって、事前準備から大会当日に至るまで、私が何を考えていたのかについて振り返ってみたいと思います。(下記の大会ホームページにたくさんの写真を掲載しましたので、ぜひご覧ください。)

http://www.keiyo-ol-club.com/event_info/27th/index.htm

●大会全般について

【良かった点】

・事前準備から大会当日まで多くのメンバーが運営に参加したこと

昨年、京葉 OL クラブは 14 名(男性 6 名、女性 8 名)と、大量の新入会員を迎えました。私は昨年から京葉 OL クラブの副会長(つばめ会でいえば幹事長に相当します)を務めていますが、彼(女)らが早くクラブに慣れ親しめるような「きっかけづくり」が副会長としての課題になっていました。この「きっかけづくり」として今回の大会は最適でした。事前準備から大会当日まで多くのメンバーが運営に参加しましたが、おかげでクラブ内の人間関係が深まったと思います。

・大会期間中の業務が順調に進んだこと

「フット+トレイル」×「2 日間大会」でしたので、大会期間中も厳しいスケジュールでしたが、前日は日付が変わる前に準備が終わり(その後に飲み会が始まったところに「京葉らしさ」を感じました)、当日も大きなトラブルがなく乗り越えることができました。京葉のメンバーは、大学大会・インカレ・学連セレクション等、他の大会の運営経験も豊富で、実行委員長としては大変心強かったです。

・JWOC の選考会参加者を取り込めたこと

開催時期がインカレの直後だったため、学生の参加者が集まらない可能性がありましたが、幸いにも JWOC(ジュニア世界選手権大会)の選考会に指定されました(スプリングカップ、富士ゴールドデン 4days、多摩 OL35 周年大会等、「ライバル」も多かったのですが、「アクセスが比較的良い 2 日間大会」が決め手でした)。この結果、M20A クラスでは 1 日目:37 名、2 日目:45 名のエントリーを集めることができました(OLT から M20A クラスへのエントリーがなかったことは少し残念でした)。

・救護面での準備に力を入れたこと

今回の大会では、AED(自動体外式除細動器)の導入、救急講習会(消防署が開催)の受講、病院の調査等、救護面での準備に力を入れました。幸いにもこれらの準備が役に立つことはありませんでしたが、万が一への備えという意味では、救護面での準備は最も重要なことかもしれません。

・手づくりのメダルを授与したこと

表彰式では入賞者に手づくりのメダルを授与しましたが、そのメダルは1日目の地図に描かれている蓮沼海岸で採取した貝殻を加工したものでした。参加者の評判は上々で、今回のトレインならではのメダルだったと思います。

【反省点】

・準備期間が短かったこと

今回の大会準備はまさに「突貫工事」でした。そもそも、「フットの公認大会+トレイルの指定大会」×「2日間大会」という盛りだくさんな(無謀な?)大会自体が他にはほとんどありません。にもかかわらず、正月の時点では地図調査や渉外もほとんど未着手でした(昨年12月にも2日間大会を開催しましたので、それまでは今回の大会準備まで手が回りませんでした)。もう少し時間があれば、競技面でも運営面でも更に精度が上がっていたことは否めません。

・開催時期をインカレ直後にしたこと

JWOCの選考会参加者は取り込みましたが、インカレ直後の時期だったため、それ以外の学生を集められませんでした。また、多くのメンバーがインカレの実行委員やオフィシャルを務めていたため(「京葉インカレ」と言ってもオーバーではなかったかもしれませんが)、インカレの準備を優先せざるを得ず、こちらは事前準備の人数も不足しました。渉外や植生等の条件もありますが、開催時期は秋か冬が良かったかもしれません。

・大会期間中の運営人数が不足したこと

やはり「フット+トレイル」×「2日間」という形式は多大なマンパワーを必要としました(参加者数をもっと多い大会は他にありますが、「フットのみ」「1日のみ」というところがほとんどだと思います)。それでも大会期間中の業務が順調に進んだところに「京葉の底力」を実感しましたが、運営人数が不足していたことは事実です。

●実行委員長について

【良かった点】

・情報の共有化に努めたこと

事前準備では膨大な量の E メールをやり取りしましたが、必要な場合を除いて、私信ではなく ML で報告・依頼するようにしました。今年の 1 月～3 月における京葉 OL クラブの ML の投稿数は 492 通に達し、私の投稿が 155 通を占めましたが、そのほとんどが大会関連のメールでした(私一人だけで一晩に 5 通ぐらい ML に投稿することが何回もありました)。その結果、他のメンバーが状況を把握しやすくなった(メールを読む手間はかかったと思いますが)と同時に、私も他のメンバーからアドバイス等ももらいやすくなりました。

また、ML を読み直せば、「誰が」「いつ」「何を」「どのように」行ったのか把握できるため、今後の大会でも「マニュアル」の代わりとして役に立つと思います。(京葉大会は「やりたいときにやりたいようにやる」スタンスですので、毎回のように開催時期や競技形式が変化します。そのため、実は今までマニュアルが存在していませんでした。他の大会では「ありえない」ことかもしれません。)

・優先順位が高い業務を見極め、できる限り早めに対応したこと

「①自分がやるべきこと」「②他のメンバーにやってもらえること」「③他の業務にも影響すること」「④他の業務と独立していること」を見極め、①かつ③を満たす業務(エントリー・広報のフォロー、要項・プログラムのチェック、総合表彰の計算シートの作成等)について、できる限り早めに対応しました。最近の京葉大会では、主に私と吉村年史氏の二人がエントリー・要項・プログラム等のチェックを担当していますが、今回の大会は非常に複雑だったため、私のコメントは(細かい箇所も含めて)要項:約 100 箇所、プログラム:約 200 箇所に達しました(それでも見抜けなかった「バグ」も若干ありました)。

【反省点】

・業務量の見積もりが甘かったこと

エントリーの業務量が予想以上に多くなってしまい(申込書の記入内容が多かったことに加えて、公認大会ですのでエリートクラスの出場権や競技者登録の確認も必要でした)、担当者に多大な負担をかけてしまいました。しかも、担当者が深夜残業・休日出勤等、大変に忙しかったため、私もフォローすることになりました。当初から複数の担当者で分担するべきでした。

・担当者があいまいな業務があったこと

担当者があいまいだったため、会場・駐車場・宿舎等の交渉が遅れてしまい、これらも私が担当せざるを得ませんでした。各パートの業務内容と進捗状況については念入りに確認するべきでした。

・大会期間中の業務が準備不足だったこと

事前準備の業務で手一杯になってしまい、大会期間中の業務(個人レベルの具体的な作業内容・スケジュールの決定、宿舎の部屋割り、移動時の配車等)の準備まで手が回らず、

運営責任者や各パートチーフに「丸投げ」になってしまいました。(京葉のメンバーなら何とかかなと思っていましたので、あまり心配していませんでしたが。)

●おわりに

大会が終わってから数日後に体重を計ってみたところ、1ヶ月前より3kg(半年前より6kg)も減っていました。(学生時代と比べても減りました。それでも標準体重を上回っていますが…。)3月以降は運動不足ですので、原因は今回の大会運営かもしれません。大会運営はダイエットに最適ですね(笑)。

時間と体重は失いましたが、得たものは大きかったです。今回の大会は貴重な「プロジェクトマネジメント」の経験になりましたので、オリエンテーリングの大会運営だけでなく会社の仕事でも自信につながると思っています(逆に、8年間の銀行員としての経験も今回の大会運営に役立ちました)。また、クラブ内の人間関係が深まったことや、オリエンテーリング界における私自身や京葉OLクラブの認知度が上がったことも大きな財産です。

この文章を読んで「運営は大変だ」と思われる方も多いかもかもしれません。今回は、大会そのものは厳しい条件でしたが、仕事やプライベートでは幸運に恵まれたおかげで(会社の仕事はそれほど多忙ではなく、妻も私が大会運営を優先することに理解を示してくれました)、何とか乗り越えることができました。しかし、今回のように特別な(無謀な?)大会でなければ、運営はそれほど大変なことではありません。

OLTの皆さんもぜひ運営する機会(東大OLKや早大OCのような外部向け練習会等)を増やして、OLTの存在をオリエンテーリング界、大学当局、OB・OGにアピールして頂ければと思います(彼らを味方につければ、きっと良いことがあるはず)。運営を通じてクラブ内の人間関係も深まりますし(インカレは努力しても主役になれるとは限りませんが、運営は努力すれば必ず主役になれる)、プロジェクトマネジメントの経験は社会人になってから絶対に役立つに違いありません(アルバイトや研究室ではこれほどの経験はなかなかできないでしょう)。

いろいろと熱く語ってしまいましたが(笑)、京葉OLクラブ創立30周年記念大会の実行委員長という大役?を経験することができて良かったと思っています。と同時に、反省点も多く、「大会運営は奥が深い」と改めて感じたことも事実です。今回の経験を今後の大会運営に活かし、さらに進化した京葉OLクラブ大会を目指していきたいと考えています。

以上

近況報告

22期 蔵田真彦

皆様、ご無沙汰しております。

大学を卒業してから早2年が過ぎ、4月から社会人3年目に突入しました。思い返せば、修士2年のときにインカレの運営に携わって以来オリエンテーリング大会会場には顔を出していないので、つばめ会の皆様と顔を合わせる機会はめっきり減ってしまいましたが、何とか元気にやっています。

さて、学生から社会人となって身の回りにいろいろと変化がありましたが、住む場所が変わったことはその一つです。社会人になってしばらくした頃、「社会人になったからには家を出て自立をしたいなあ」と考え、神奈川県は向ヶ丘遊園という街に引っ越してきました。向ヶ丘遊園は新宿から小田急の急行で21分という便利な場所ではありますが、あまり馴染みがなく、ぴんとこない街ではないかと思います。同じ「がおか」とはいえ、自由が丘に比べると若干知名度が劣ることは否めません。今回はこの向ヶ丘遊園という街について皆様に紹介するとともに、私の近況について報告したいと思います。

「向ヶ丘遊園(遊園地)がない」

まずこの街がすごい点は、向ヶ丘遊園と呼ばれ、駅名も「向ヶ丘遊園」でありながら、肝心の向ヶ丘遊園という遊園地がありません。かつてはあったのですが、数年前に廃園になったそうです。引越し先を検討しているときに、この街に興味を持ったきっかけが「遊園地があるだなんて、なんて楽しそうな街だ」と思ったことだったので、この街を最初に訪れたときに向ヶ丘遊園(遊園地)がもうないということを知った時はとてもショックでした。

「都心に近い割に緑がある」

この点についてはとても気に入っています。自宅のすぐ裏側には生田緑地というまとまった緑があり、春は桜を、秋は紅葉を楽しむことができます。また、生田緑地には枳形山という山があり(山というよりも小高い丘ですが。)、その頂上から見る風景は都心に割と近い街の景色としては見事なものだと思います。

この生田緑地の自然の豊かさはなかなか馬鹿にできないものがあり、かつてのインカレシード選手が軽い気持ちで山に入ってみたら危うく下山できなくなりそうになった、という話を聞いたことがあります。

「多摩川が近い」

自転車ですら5分ほどで多摩川に出ることができます。趣味でロードバイクと呼ばれる自転車に乗っており、週末にはよく多摩川サイクリングロードを走っています。

この自転車は健康づくりとダイエットのために乗っていたようなものだったのですが、一念発起して今度レースに出場してみることにしました。出場するのは上りだけのコースで競うヒ

ルクライムレースで、富士スバルラインで富士山の5合目まで上るというものです。レースは6月に行われるので、現在は付け焼刃的な悪あがきをしている最中です。

「交通の便がよい」

冒頭で述べたように知名度がいま一つな向ヶ丘遊園ですが、意外なほど交通の便はよいです。小田急で新宿まで21分で行くことができますし、隣駅の登戸から南武線を使って川崎・横浜方面にも行きやすいです。中央線沿線に住んでいた以前よりも、むしろ行動範囲は広がったかもしれません。

なお、これだけ交通の便がよいので、いまだに運転免許を持っていないことは言うまでもありません。

近況報告

和田雄一郎(16期)

皆さんこんにちは、16期の和田です。93年の春から97年の春までの4年間、OLT部員として周りの皆さんや部室には相当お世話になりました。卒業後もOLT杯とつばめ会総会などへは細々と参加を続けていたのですが、最近ではそれも微妙な感じになっています。そんな私ですが、このたび近況報告執筆のお話を頂きましたので、足しになるかどうかはわかりませんが、今の生活や興味あるものあたりを書いてみようと思います。

現在、私は電機メーカーに勤務し、パソコン開発部門でオーディオ関係の担当をしています。メインの業務はスピーカユニットの開発で、部品の材質や形状をいじってみて、それぞれの違いを確認しながら仕様を選んでいくといった感じです。ちょっとした形状の変化で、音が結構変わってしまったりするので面倒なことも多いですが、逆にそれが面白いところでもあります。ちなみに作業は基本的には聴感を頼りに進めていくのですが、なんというか非常に感覚的です。

実は入社当初はディスプレイ関係の担当だったのですが、現在そんな仕事をするようになったのは実は或る頃から音楽鑑賞に興味を持つようになったからで、自宅のシステムはN803(ちょっと型落ちですね)+Accuphaseです。これですぐ理解できた方、もし良かったら声をかけてください。

それ以外にも自転車に乗ったり(部屋が狭くなってかなわん)、クロスカントリーのスキーをしてみたり(オリエンだって出来る！)、フランス語を独学でやってみたり(あの時ロシア語なんて選ぶんじゃなかった)、と卒業後に始めたことは幾つかありますが、そんな中から渋めのネタを一つ。突然ですが"京都の庭 BEST3"です。

最近では建築物や庭園なんかを見るのも楽しみになっていて、ひっそりとした日本の庭は特にお気に入りです。とはいってもそれほど詳しい訳ではなくて、単に行ったことのあるところの中から趣の感じられる場所を選んでみました。

第三位: 祇王寺

シンプルさとひっそり感が良。結構狭いですが反ってそれが良いのかも。

第二位: 蓮花寺

池の眺めも有名なようですが個人的にはお堂側?が好きです。紅葉も良好(時期要注意)。

第一位:大徳寺高桐院

見所多数。いきなり参道から立ち止まってしまう人も多いですが、一番の見所はやはり南側の庭でしょうか。絶妙のレイアウト。

私の場合、一箇所に半日くらい入りびたりです。高桐院でも平日だと一時的には独占可能で、庭を見ながら寝転んだりしてすごせます。

といったところでそろそろ私の話も終わりにしようと思いますが、最後に一つおまけです。高桐院には「一鳥啼山更幽」とかかれた書があります。静寂感がよく表現されていると思うのですが、大抵のオリエンティアは静けさ以上の感覚と共に体験したことがあるのでは？

インカレミドル・リレーのプログラムに掲載した応援広告を掲載します。

頑張れ 東工大 OLT!



～選手権の部出場者～

4年 高瀬悠太 羽賀岳尋 松井弘毅
3年 小山温史 比嘉友紀 村上一輝 村上巧 山崎啓吾
2年 伊藤将宏 栗田俊輔 近藤友洋 斎田篤 島田裕司 武藤貴昭
1年 古谷嵩 御崎智之

and 一般の部に臨む選手達…、共に目指せ表彰台！！

いっぱい戦って、いっぱい飲んで、今しかできない体験をたくさんしてください！(13期・佐々木順) ■私のようなOB10年目のおじさんになっても記憶に残るようなインカレにしてください。(16期・奥田健史) ■熱くなれるものがあることは素晴らしいことです。限りあるその時間を大切に過ごしてください。(19期・円井基史) ■ここまでやってきた自分を信じて、仲間を信じて(20期・仁多見剛) ■自分の実力を気負うことなく出し切ってください。皆様のご活躍を期待しています。(23期・川井宏一) ■最後まで走れ！(23期・斉藤孝男) ■負けたらメガドラ没収な(23期・佐藤善信) ■MAX コーヒーのように全国区にのし上がってください！(23期・田中淳一) ■シンジラレナ～イ結果を！(24期・鷹薮和邦) ■ギリギリを攻めるんだ！(24期・坪居大介) ■がんばってね ももこ(25期・伊藤善人) ■インカレでの皆様の御健闘をグループ全体でお祈り申し上げます。(25期・G) ■とりあえず、インカレを楽しんでおけば間違いないっ！(25期・岡英樹) ■レース中の一瞬の苦しさでレース後も続く悔しさを比べてみれば、あと一步を頑張れないわけがない(25期・北崎茂) ■一人じゃないから みんながいるから(25期・北村俊介) ■逃した魚はおいしいぞ またこの次なんてあるわけじゃない(25期・北村伸介) ■目標は叶うから目標です。夢にしないでください。(25期・木平孝和) ■インカレは楽しんだもの勝ち。だから大いに楽しんでください。(25期・今野利光) ■ご主人様に誓って頑張れ(25期・村上諒一)

Message from つばめ会 

ML・ホームページ・掲示板について

つばめ会会員間の連絡手段の1つとしてつばめ会ML(メーリングリスト)を立ち上げています。大会情報・観戦記、同期会・飲み会の連絡、近況報告など、お気軽に使ってください。メールアドレスは tsubame@egroups.co.jp です。ご不明な点がございましたら、管理者の井ノ川智史 (tsubame-owner@egroups.co.jp)までご連絡ください。このML に関するホームページ(登録メンバーのみ)にて過去ログなどを閲覧することもできます。

<http://www.egroups.co.jp/list/tsubame> にもぜひアクセスしてください。

つばめ会のホームページが稼動中です。ぜひご覧ください。

●つばめ会のホームページ(管理人:坪居大介(24期))

<http://www.geocities.co.jp/Athlete/4476/>

●東工大OLT のホームページ(管理人:田澤典彦(27期))

<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Labo/3247/>

つばめ会の雑談用掲示板を作成しました。(管理人:坪居大介(24期))

<http://x.z-z.jp/?tsubame> です。パスワードは先日MLのほうに流しましたが、つばめ会MLに最近加入した、該当メールを紛失した等の理由でパスワードが分からない方は坪居 (t_daisk@yahoo.co.jp)まで連絡ください。

※スパム対策として、メールアドレスは全て画像になっています。ご了承ください。

新たに事務局長になった友安充宜君に自己紹介を書いてもらいました。

ともやすみつよし
名前:友安充宜

役職:事務局長

研究科、専攻:社会理工学研究科、社会工学専攻

過去の役職:技術部(2004年度)、技術部長(2005年度)

過去の実績:残念ながら特筆すべき実績はありません

つばめ会のみなさんへ:2007年度の事務局長をやることになった友安です。これから一年間、宜しくお願いします。

編集後記

まずは原稿を書いていた皆様どうもありがとうございました。
また、今回は発行が非常に遅れてしまい、まことに申し訳ありませんでした。
今寮に住んでいるので、未だにネット環境がないのが悪いんです・・・と言い訳をしておきます。

もうずいぶん前の話になってしまった気がしますが、矢板でのインカレミドル・リレーの観戦に行ってきました。僕はミドル観戦→矢板で宿泊→リレー観戦というスケジュールで行ったわけですが、今年もミドルの日の夜はOBの皆(8人程度)で宿泊し、楽しい飲み会がありました。OBの飲み会なのになぜか純を買うO部さんとか、なぜかハブ酒に手が伸びたT江さんとか、矢板に行く際になかなかありえない行動をしていたY田さんとか、それはもう非常に楽しかったです。
実は僕はインカレの日にOBで飲んだのは初めてなのですが(去年はコーチ)、やはりこういうイベントはずっと続けていきたいと思いました。こういう機会でしか会えないOBもいるわけですし。次はOLT杯@宇根峠の前日に秩父で宿泊でしょうかね。今から楽しみにしておきます。

さて、毎年この時期はOLTが大きく変わる時期ですが、個人的にも大きな変化がありました。この4月から就職し、現在高崎(群馬県)から電車で20分くらいのところの寮に住んでいます。やはり東京→群馬だといろいろ不便ですが、まあそれなりには生きています。寮から実家まで3時間くらいなので、その気になれば土日に実家に帰れたりもします。
オリエンテーリングのほうは矢板インカレ以来していないのですが、そろそろ復活しようかと考えています。ちょうど運動不足になりそうなので。そろそろ現役の半数に負けそうですが・・・。

OLTのほうも、コーチが決まり、そろそろ新歓も終わる頃でしょうか。とはいえ、例年年度の初めはコーチ業や部の運営が何かと危なっかしい時期でもあります。そんな時に、OBとして、何か出来たら・・・と思います。「OBにはOBにしか出来ないことがある」(某氏談)ので、OBになったらどうしても疎遠になってしまう・・・と考えるのではなく、OBにしか出来ないことをやっていこうと考えたりしています。
というわけで、第1歩として、OBの皆様もたまにはオリエンテーリングに復帰してみませんか？

・・・さすがに最後の結論は無理矢理すぎますかね？

東京工業大学オリエンテーリング部OB/OG 会「つばめ会」会報 Slope 21号 発行責任者 岡部 健志 編集責任者 坪居 大介 (t_daisk@yahoo.co.jp)
--

発行年月日:2007/5/17